

益新集團が 2018 年度幹部研修を実施

7月9日～10日、益新集團が2018年度の幹部研修を二日間にわたって蘇州の中国本部で実施しました。研修は年度計画に則って、人事管理チーム(CHO)によって実施されました。「実践の中から、再び実践へ」という原則に従い、参加者全員に事業発展への課題とそれについての自らの考えを持って、研修参加と意見交換することを要件としました。

今回研修のポイントは二つあります。一つは益新集團の経営管理者にとって必須の「共通言語」(益新の経営管理に必要なABC)であり、もう一つはEPSおよび益新の事業に対して理解を持った上で、企業理念を理解することです。研修は「前進する益新事業およびその課題——CEOとの対談」、「益新集團の共通言語——財務管理ABCと日中企業文化の差異」を二つのテーマとし、「テーマ発表+コメント」の形で実施されました。



研修風景



コメンテーターの皆さん

研修初日の後半に、益新集團の嚴浩 CEO が「前進する益新事業およびEPSグループ——CEOの考え」をテーマとする講演を行いました。EPS創業・発展の歴史を振り返り、経営管理者にとって個人の行為を企業の行為に転換し、専門性を組織と結びつけることの重要性を強調しました。EPSグループの中期経営計画(Vision 30)における益新集團の位置づけとビジョンを再明確化し、「自己を超えて、未来を拓こう」と集團幹部特に若い幹部達を励ました。



嚴浩 CEO の講義



エーザイ(中国)岳総経理の講演

二日目に、衛材(中国)薬業有限公司(エーザイ株式会社の子会社)の岳文琴総経理を招き、「私から見る日中企業文化の差異」について講演していただきました。岳氏は自身がエーザイにいたる20年間の経験をもとに、異文化衝突が怖いものではなく、大事なものは悪性衝突を抑制し、良性衝突を勧めることだと述べました。また、異文化衝突を解決するには、相手の立場に立って考えることがもっとも重要であり、そのためには十分な信頼、授權、当事者意識がなければならないと教えてくれました。岳氏の講演は参加者の皆様に新しい視点をもたらして、有益な示唆を与えました。

今回の益新集團幹部研修には、集團経営層、各事業セグメント及び企業の中堅管理層計60人が参加しました。

益新集團広報渉外チーム
2018年7月26日